

## 第6回特別展

西洋の影響をうけた浮世絵

### 眼鏡絵と東海道五拾三次展

浮世絵は、日本を代表する美術のひとつとして海外でも高い評価を受けている。とくに大胆な色の使い方が19世紀のヨーロッパの画家たちに強い衝撃を与えたことは、広く知られているところである。しかし、逆に浮世絵の中にも、遠近法や陰影法という西洋絵画の描き方が、18世紀以降、西洋の銅版画やその影響をうけた中国の絵画などからたくみにとり入れられている。

本展では、円山応挙が描いたとされる「眼鏡絵」や当時の庶民のテレビの役割を果たしていた「覗き眼鏡」、歌川広重の「保永堂版・東海道五拾三次」などの浮世絵版画などを通して浮世絵が西洋の影響をとり入れて行くようすを展観した。

会期／昭和59年4月21日（土）～5月27日（日）

会場／神戸市立博物館

主催／神戸市立博物館、神戸市教育委員会、神戸新聞社

サンテレビジョン（開局15周年記念）

開館日数／32日間

入館者数／19,650人

出品件数／190件



※この図録は完売いたしました。



芝居狂言舞台顔見世大浮世絵（無題）